

グリーン アクション グリーンコープ

GREEN ACTION Green COOP

アンケート Q&A

カーボンニュートラルアンケートにお答えいただきありがとうございました。

たくさんのご意見もありがとうございました。いただいたご意見は、これからの検討及びグリーンコープのカーボンニュートラルを進めていく中で、参考にさせていただきます。

アンケートの質問で多かったものの回答を準備しましたのでご覧ください。また、紙面では書ききれなかったものについては、ホームページでも案内しておりますので、ぜひそちらも合わせてご覧ください。

クリックして確認する



カーボンニュートラルに取り組むことについては、EVに対する不安や「CO₂が原因ではない」というご意見もありましたが、「気候変動、地球温暖化を毎日の生活で感じている」「小さな事でも未来の子ども達のために出来ることに取り組む必要性を感じる」というご意見もありました。

2月に実施したアンケートでは、「カーボンニュートラルを達成するために、全ての商品に商品価格の1%を上乗せすると実現できると試算されている。1%が含まれた商品を購入することについてどう思うか?」と問いかけていましたが、そのアンケート結果や、組合員からの声を受けて、カーボンニュートラルの財源の集め方を修正して総代会へ提案することにしました。

6月8日に臨時総代会を開催し、グリーンコープがカーボンニュートラルに取り組むこと、その財源について「①同意してくださった組合員から商品代金の1%を拠出していただく②同時に、理事会を先頭に、みんなで、より多くの組合員の同意を得られるように呼び掛けていく」を提案しました。たくさんのお意見が出され、しっかりと検討を行った結果、賛成多数で承認いただきました。また、財源の集め方として他の方法も今後、組合員の声聞き検討していきます。

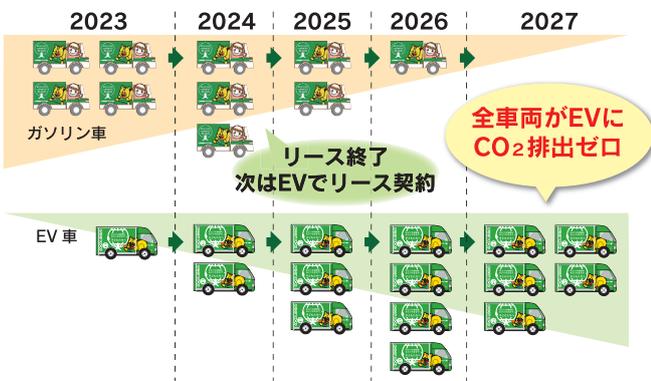


これからも組合員の検討を大切に、カーボンニュートラルをすすめます。

Q1

なぜ2027年を目指したのか？

A 現在導入している配送車両はリースです。このリース期間が終了するタイミングにあわせて、EVに替えると2027年に全車両がEVになり、カーボンニュートラルを実現できないかと考えました。また、2027年という、社会的にも早いと言える目標をたて実現することで、インパクトをもって社会へ呼びかけることができると考えていました。



Q3

商品代金上乘せの前に配送ルートの見直し、チラシやビニール袋の削減などできることがあるのでは？

A ふくおかでは配送コースを効率化するシステムを6月より導入し、配送順やコース組を効率化できるように進めています。

チラシの削減については、必要なカタログを組合員が選択できるようにして削減に向かいたいと考えています。また、カタログサイズも小さくなりました。

仕分け袋については、現在の運用を変更すると作業効率が落ちてコストアップしてしまうことと、衛生面から商品をむき出しで保冷箱に入れることは難しい面があると考えています。袋to袋の取り組みを通して、再利用することを呼びかけていきます。

Q2

これだけの費用をかけて電気自動車にするメリットが分からない。少しずつ進めればいいのではないのか？

A 気候変動をとめたいと考えたときに、まずは事業で排出するCO₂をなくしていきたいと考えました。グリーンコープが排出しているCO₂は年間約15,000tであり、そのうちの4,800tは配送車両から排出していますので、配送車両をCO₂を排出しないものへ変更しようと考えました。一斉に替えるのではなくリースの契約期間に合わせて進めていきます。加えて、トラックの充電設備工事は配送センター全体で行なうことでコストが抑えられますので、配送センター単位でEV化を進めることで考えています。気候変動抑制に向けて、他にもできることがあれば検討していきたいと思えます。

グリーンコープのCO₂排出量は約15,000t

ドライアイス 1,700t
ガソリン 4,200t
軽油 600t



Q4

電気自動車を増やすことで、原子力発電を増やさなくてはいけなくなる。再稼働を進めることになるのでは？

A グリーンコープはチヨルノービリ原発事故以来、脱原発運動を進めています。原発を稼働させなくても再生可能エネルギーで電力は賄えると考えています。グリーンコープでんきを使って充電することで、CO₂だけでなく原発フリーの電気トラックを走らせていることもアピールしていきます。今までの取り組みの積み重ねがあるからこそ、グリーンコープはカーボンニュートラルも脱原発も同時に取り組むことができると考えています。

Q5

電気自動車は部品のみでの取り換えなどリユース、リサイクルができず、車体丸ごと処分になると聞いた。処分台数や発生するCO₂は逆に増加するのでは？

A 現在導入している電気自動車のメーカーより以下の回答をいただきました。

<日野自動車>

故障時は従来の車両同様に修理にて対応します。廃車時も従来の車両と同様、自動車リサイクル法を遵守しており、設計段階から環境に配慮しリサイクル可能な材料を選定しております。EVバッテリーのリサイクルについては自動車再資源化機構を窓口とし、共同回収のスキームを行っております。

<フォロフライ>

車両が故障した際は、該当部品を交換することで修理が可能です。また廃車時の方法ですが、基本的には従来のエンジン車と変わりません。当社の車両もエンジン車と同様に、新車登録時にリサイクル券を発行しており、金属、樹脂やゴム、エアコンガス、エアバッグ等に分類され、回収・リサイクルが行われます。



Q6

長距離、寒冷地、被災地支援などに使えるのか？
停電時などは大丈夫なのか？

A 長距離を走ることは難しく（最大150km）、寒冷地での使用は満充電できない可能性があります。今後改善されていくと考えています。雪での立ち往生については、ガソリン車であっても閉じ込められれば30リットル燃料が残っていても一日でガス欠になりますし、雪でマフラーからの排気が滞れば一酸化炭素中毒の危険もあります。被災地支援については、停電すれば給油スタンドも使用できない状態となります。過去の災害時の復旧では、給油スタンドより電気の復旧が早いケースが多いようです。ガソリン車より、電気自動車の方が浸水に弱いということはありません。

今後、各配送センターには自家消費用の太陽光発電を行う考えです。自家消費された発電の一部は使用せず非常時用として蓄電することができます。その電力を用いて一部の車両を稼働することも可能となります。災害時には、電気自動車のバッテリーを用いて、照明、調理機器、携帯電話ほかの電源としても使えるメリットもあります。



福岡西支部太陽光発電パネル



自立型の充電器



壁掛け型の充電器

Q7

配達する方にとって
電気自動車に替えることの
メリットは？

A 以前よりワーカーからトラックの改善要望がありました。電気トラックは、低床タイプ、車両から降りずに荷台への移動が可能、また運転席のエアコンが荷台にも届くようになっていました。そのため乗り降りの回数や負担が大幅に軽減でき、暑さ対策にもなり、配送ワーカーの負荷軽減という意味でもすぐに導入したいと思いました。また、配送トラックで使用するガソリン車やHV車に、低床タイプや運転席から直接荷台へ移動できるタイプはありませんでした。



ガソリン車



電気自動車

Q8

太陽光発電所をつくることで、元々の生物に支障がでるのでは？

A 神在の太陽光発電所は自動車教習所跡地に建設しました。地域の方の生活環境に配慮し、工事期間中は工事車両専用道路を建設しました。また、糸島市と環境保全協定書も結んでいます。糸島市、九電工と合同で地元説明会を開催しコンセンサスを得て建設をしました。今後もきちんと地域や環境を守ることに配慮して取り組みを進めていきます。電気自動車の充電のために、各配送センターの屋根に太陽光パネルを設置します。森林伐採は行いません。



神在太陽光発電所

Q9

神在発電所のソーラーパネルの使用後の処理の方法はどうなってる？

A グリーンコープでんきがパネルを廃棄処分する際には、当然のことながらリサイクル率の高い業者を選定するようにしていきます。費用面については、2022年制定された法的義務による廃棄費用積立費の他に独自で竣工の翌年から廃棄費用を積み立てています。

